

地域ワイド



遊歩道きれいに手入れ

富山市割山(細入)の割山森林公園「天湖森」の遊歩道の手入れ作業は12日、現地で行われ、地元の児童・生徒や森林ボランティア合わせて約70人が、歩きやすい道になるよう汗を流した。

細入・割山森林公園「天湖森」

地元の児童生徒協力

松田さん(左)に手ほどきを受けながら木を運ぶなど遊歩道の手入れに汗を流す生徒ら

遊歩道は全長約1キロで、森林保全に取り組む富山市のNPO法人「きんたろう倶楽部」(鏡森定信理事長)と天湖森を拠点に活動する森林ボランティア団体「しんゆう倶楽部」(森坂義孝会長)が2006年に造った。両倶楽部と檜原中学校、神通碧小学校が合同で毎年、この時期に手入れしている。

児童・生徒は三つのグループに分かれて作業を行った。小雨が降る中、事前に両倶楽部のメンバーが切っておいた倒木を運んだほか、のこぎりで低木を切ったり、鎌で草を刈ったりした。集まった枝木はチップ化され、火力発電所の燃料や、木炭を使った脱臭剤などの原料として役立てられる。

初めて参加した神通碧小学校5年の高橋慶多君は「木を切るのが大変だった。訪れる人が遊歩道でごみなどを捨てずに使ってほしい」と話した。きんたろう倶楽部の松田秀明事務局長は「参加した子どもたちが公園を訪れる人が、里山に親しむきっかけになればうれしい」と期待を寄せた。

北日本新聞 平成25年11月13日(木)

顔 face



松田秀明さん。NPO法人「きんたろう倶楽部」事務局長で、天湖森(富山市割山・細入)の遊歩道を手入れした 【23面】